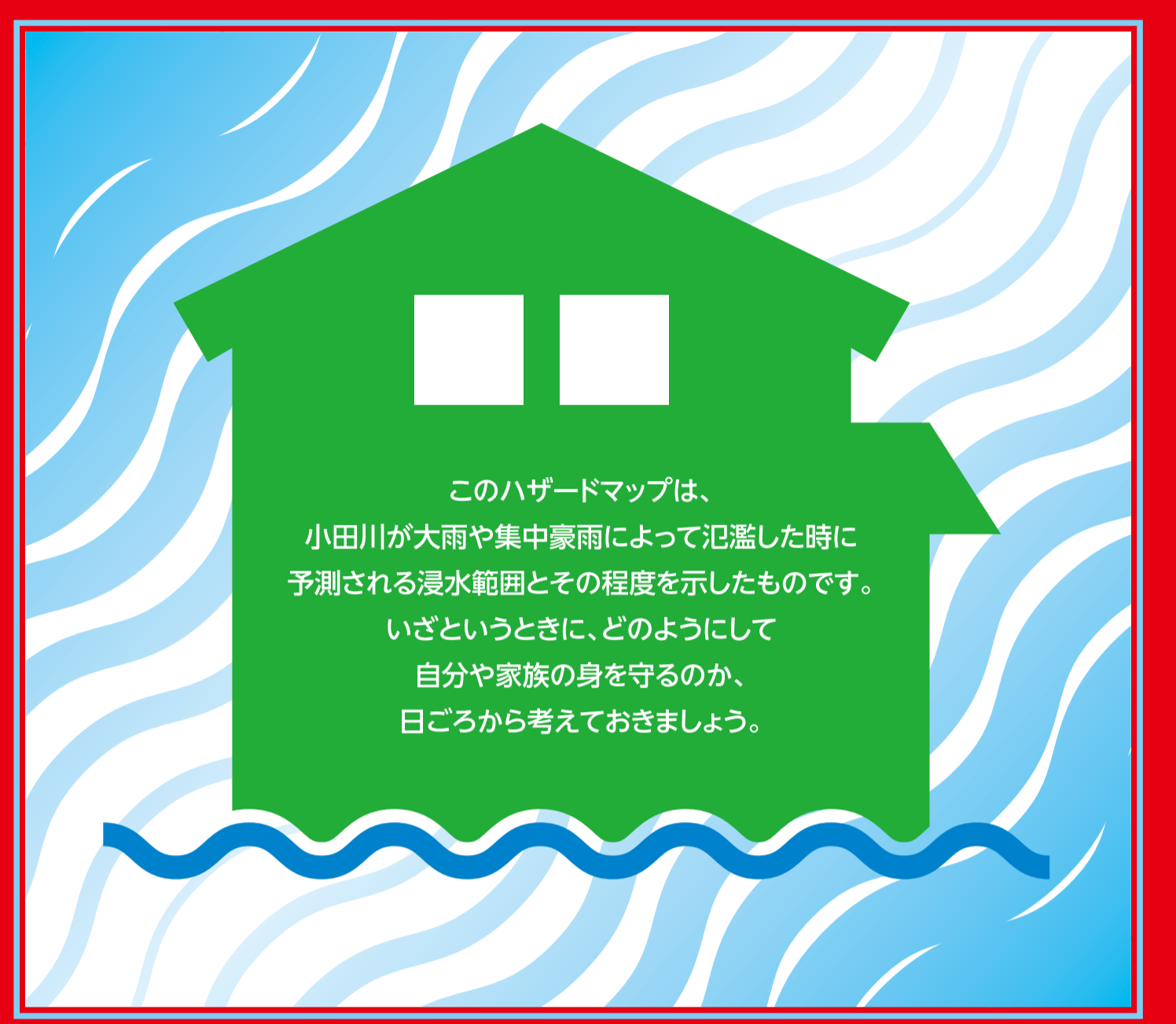


小田川洪水ハザードマップ

Oda-river Flood Hazard Map

五十崎地区



内子町役場
TEL:0893-44-2111

避難先を考え、家族で情報共有しておこう!

災害は時間を問わず起こります。日中・夜間の家族の居場所を想定して、各自の避難先を考えておきましょう。また、安全な避難ルートも複数考えておきましょう。

名前	学校・勤務先	電話番号	避難先	メモ

災害が起きてしまったら...

名前	電話番号(携帯)

伝言の登録方法

- 171にダイヤル
- [1]をダイヤル
- (市外局番)+電話番号
- 伝言を録音

伝言の確認方法

- 171にダイヤル
- [2]をダイヤル
- (市外局番)+電話番号
- 伝言を再生

災害時に各携帯電話会社が「災害用伝言板」を緊急開設します。携帯電話やスマートフォンから安否情報の登録や確認をすることができます。

大雨の時どんなことに気をつける？

1 雨の降り方・強さ

短時間にまとまった量の雨が降った場合や長時間にわたって雨が降り続いた場合には、洪水や土砂災害の発生する恐れが強まります。強い雨が降っているなど感じたら、積極的に気象情報や河川等の情報を収集し、いつでも避難できる心構えをしておきましょう。

1時間の雨量が	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm~
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	
ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のようにゴーゴーと降り続く	息苦しくなるような圧迫感や恐怖を感じる	
長く降り続く時は注意が必要。	側溝や小さな河川があふれる。	山崩れなどが発生しやすくなる。避難の準備が必要。	中小河川のはん濫や、土砂災害の発生・拡大の可能性が高くなる。	大規模災害の発生する恐れが非常に強く、厳重な注意が必要。	

2 気象情報・特別警報

参考:気象庁

気象状況	気象庁からの情報	皆さんの行動
大雨の数日~初1日前 大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報	気象情報やハザードマップを確認 ●危険な区域を把握 ●安全な場所や避難経路を確認
大雨の半日~数時間前 雨が降り始める	注意報	最新の情報をこまめに確認 ●土砂災害警戒区域等にある方は準備が整い次第避難を開始 ●高齢者等は速やかに避難
大雨の数時間~2時間程度前 大雨になる	警戒	土砂災害警戒区域等や河川沿いにいる方は準備が整い次第避難を開始 ●高齢者等は速やかに避難
大雨が1層急しくなる	警報	速やかに避難 ●危険な区域等の外でも安全な場所に速やかに避難
広い範囲で数十年に一度の大雨	特別警報	避難を完了 この状況になる前に避難を完了しておく

●警報の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表
●最大限の警戒を呼びかけ
特別警報の種類:「大雨」「暴風」「暴風雪」「大雪」「高潮」「波浪」

3 避難情報

町が出す情報にも気をつけて、早めの避難を! また、これらの情報に関わらず、身の危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。

避難準備情報・高齢者等避難開始

- 避難に時間がかかる要配慮者(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。
- その他の人は、避難の準備を整えましょう。

避難勧告

- 速やかに避難所へ避難しましょう。
- 外に出るのが危険と思うときは、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。

避難完了

避難指示(緊急)

- まだ避難していない人はただちに避難所へ避難をしましょう。
- 外に出るのが危険と思うときは、近くの安全な場所への避難や、自宅内より安全な場所に避難をしましょう。

4 河川水位

大雨により小田川の水位が上がり、はん濫の危険性が高くなると、河川管理者(県)などから防災に関する情報が発表されます。町ではこれらの情報をもとに総合的に判断して避難情報を発令します。

はん濫発生	水位観測所の該当水位	県から出される情報	避難情報
はん濫危険水位 (はん濫のおそれがある水位)	3.9m	はん濫発生情報	災害発生情報
避難判断水位 (避難の目安となる水位)	3.5m	はん濫危険情報	●避難勧告 ●避難指示(緊急)
はん濫注意水位 (河川のはん濫の発生を注意する水位)	3.0m	はん濫警戒情報	●避難準備・高齢者等避難開始
水防団待機水位 (水防団が出動のために待機する水位)	2.5m	はん濫注意情報	
	平常時の水位		

水位観測所の該当水位: 内子(知清橋下流100m)

どうやって避難する？

避難時の注意点

河川の近くや浸水深が3m以上のところでは、家が流されたり2階も浸水する恐れがあります。逃げ遅れる前に安全なところへ避難するようにしましょう。

履きなれた底の固い運動靴などで避難しましょう!

濡った水で足元が見えないので、棒や杖などで確認しながら避難しましょう。

足元のマンホールや側溝には注意しましょう!

濡った水で足元が見えないので、棒や杖などで確認しながら避難しましょう。

避難が遅れ、危険が迫った場合は、生命を守ることを第一に考え、自宅の2階や近所の建物の上階などに急いで避難しましょう。

どこから情報を収集するの？

雨の状況や河川水位

- テレビ・ラジオ
- インターネットで確認
- QRコード
- メールで受信
- その他

土砂災害にも気を付けよう!

土砂災害警戒情報とは?

土砂災害警戒情報とは、大雨警報発表後も雨が降り続き、土砂災害発生の危険性が高まった時に、愛媛県と松山地方気象台が共同で発表する防災情報です。情報は市町村単位で発表され、町が避難勧告などの判断材料とする他、町民のみなさんが自主的に避難する判断にも利用できます。土砂災害警戒情報が発表された時は「いつ土砂災害が起きてもおかしくない」という非常に危険な状態なので、注意が必要です。特に、自宅付近にけがなどがある場合は、周囲の様子に注意して、早めの避難を心がけましょう。

土砂災害の豆知識

土砂災害には主に「土石流」「げけ崩れ」「地すべり」の3種類があり、それぞれに土砂災害警戒区域等が指定されています。土砂災害警戒区域等の位置は別途配布している防災マップをご確認ください。

土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域
急傾斜地の崩壊や土石流等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。	急傾斜地の崩壊や土石流等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域です。特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

いざというときに備えて日ごろからやっておこう

日ごろの備え

リュックサックなどに入れておき、避難時に持ち出す「非常持ち出し品」と避難後の生活を支える「非常備蓄品」に分けて備えておきましょう!

非常持ち出し品 チェック!

- 携帯用飲料水
- 食品(カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど)
- 貴重品(預金通帳、印鑑、現金など)
- 救急用品
- 健康保険証(番号の控え)
- 普段飲んでいる薬
- ヘルメット、防災ずきん
- 軍手(厚手の手袋)
- 懐中電灯・ランタン
- 衣類(セーター、ジャンパー類)
- 下着
- 毛布
- 携帯ラジオ・予備電池
- マッチ、ろうそく(水にぬれないようにビニールでくるむ)
- 使い捨てカイロ
- ウェットティッシュ
- 筆記用具(ノート、えんぴつなど)

小さな子どものいる家庭は

- ミルク
- 紙おむつ
- ほ乳びん

高齢者のいる家庭は

- 介護用品(大人用紙おむつなど)
- 補聴器

避難所に持っていくと便利なもの

- ラップ
- 大判タオル
- アルミシート
- スリッパ
- 座布団
- 寝袋
- 洗面用品
- ドライシャンプー
- 空のダンボール
- 携帯トイレ
- 耳栓
- アイマスク
- 圧縮袋
- モバイルバッテリー

ペットがいる場合

- 飲料水・ペットフード
- トイレシート
- キャリーケース

非常備蓄品(一人分) チェック!

非常備蓄品(一人分) チェック!

- 飲料水 9リットル(3リットル×3日分)
- ご飯(アルファ米) 4~5食分
- ビスケット 1~2箱
- 板チョコ 2~3枚
- 乾パン 1~2缶
- 缶詰 2~3缶
- 携帯トイレ
- トイレトペーパー

※非常備蓄品(一人分)の項目・数量は一例です。

ローリングストック法を活用しましょう

備蓄食料は、最低3日分(推奨1週間)用意しましょう。とはいえ、災害用に保存しておくのは大変! 日々の買い物の中で、保存性の良いものを多めに買い置きしておき、忙しい日等の食事に取り入れては、買い足すというふうにはいかがでしょうか。

身近な物を活用! 防災豆知識《断水・停電の時に役立つ》

※参考:消防庁「わたしの防災サバイバル手帳」

水の「ろ過」のしかた

ふたの真ん中に小さな穴をあけ、底の部分を取り除く。さかさまにして砂や木炭などのろ過材を入れておき、下に水受けを置けばできあがり。

食用油でランプをつくる

材料は、サラダオイル(食用油なら可)、ティッシュペーパー、アルミホイル、ガラスのコップです。使う油の量は3時間5cc程度なので、少量で長く灯し続けることができます。